

救いの神器 ～み手代お取次ぎ～



病気や悩み事を抱えて不安になった時、誰かに助けてほしいとすがりたくなるものです。そんな時、大本では救いの神器「み手代」を用いた「み手代お取次ぎ」を行い、神さまのご守護・お力をいただきます。今回はみ手代お取次ぎの受け方について紹介します。



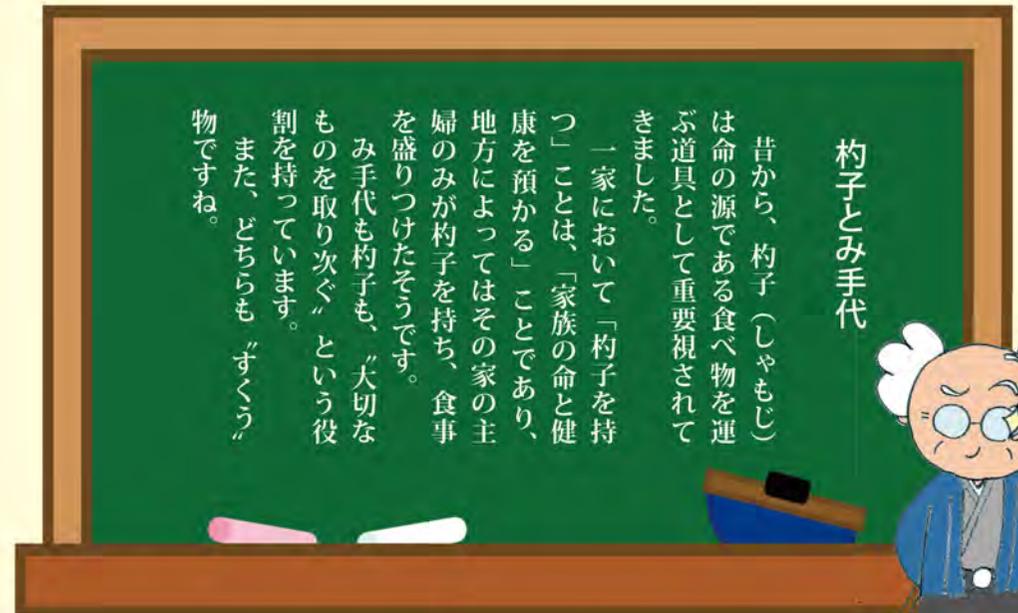
みろく博士



Q… 旅行先で体調を悪くしてしまった時、み手代お取次ぎを受けるにはどうしたらいいですか。

A… 離れた所からでも、み手代お取次ぎを受けることができます。これを「遠隔お取次ぎ」といいます。宣伝使に、自分がいる場所や状態などを伝え、指示に従って、安心して遠隔お取次ぎをお受けください。

こんな時どうしたらいいか。



杓子とみ手代

昔から、杓子（しゃもじ）は命の源である食べ物を運ぶ道具として重要視されてきました。

一家において「杓子を持つ」ことは、「家族の命と健康を預かる」ことであり、地方によってはその家の主婦のみが杓子を持ち、食事を盛りつけたそうです。

み手代も杓子も、「大切なものを取り次ぐ」という役割を持っていきます。

また、どちらも「すくう」物ですね。

大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



<連絡先>



苦しい時は…



「苦しい時の神頼み」ということわざがあるように、病気やケガ、悩み事などで不安になった時には、普段、神さまに手を合わせない人も、この時ばかりはと神さまに祈ります。
「普段お参りもしないのに」といわれるかもしれませんが、本当に苦しい時に、何かにすがりたいと願う気持ちは、人の「心の声」なのです。

私たち人間をはじめ、この世のすべてを作り、育まれている神さまは、私たちをわが子のように愛してください。

ですから、私たちが苦しんでいる時、神さまは心から心配しておられます。

苦しい時こそ、真剣に神さまにお祈りすることが大切です。

神器 み手代

「み手代」とは、杓子（しゃくし）の形をした木製の神器です。大本の当代教主が神さまのお力を頂けるようにと祈願したもので、大本の教えを伝える資格を持った「宣伝使」が奉持しています。
「み手代お取次ぎ」は、この宣伝使が「み手代」を通して神さまの

ご神徳をいただけるようにとご祈願するものです。



み手代お取次ぎを受けよう



「み手代お取次ぎ」を受ける場所や時間などは、宣伝使とご相談ください。

受ける前には、病気の状態や不安に思うことを宣伝使に伝え、一緒に祈りしてもらいましょう。

宣伝使はみ手代を相手にかざし、その人の心（魂）に向けて、祓いの「のりと」を奏上し、神さまからのご守護を取り次ぎます。この間、お風呂に入っているようならラックスした気持ちで素直に受けることで、魂に大きなお力を頂けます。

※み手代お取次ぎは、医療行為ではありません。

お問い合わせはこちらへ

「み手代お取次ぎ」を受けたい時は、大本信徒から、大本宣伝使を紹介してもらいましょう。

身近に大本信徒がない場合は、大本本部亀岡宣教センター（京都府亀岡市）にお問い合わせください。

大本本部 亀岡宣教センター
愛善宣教部
0771(56)9065



※み手代お取次ぎを受ける時の姿勢は、その時の体調や状況に応じますので、詳しくは宣伝使の指示に従ってください